

#### 4. 職員研修

(1) 平成18年度公立大学協会図書館協議会研修会（大阪府立大学）

- ① 主催 公立大学協会図書館協議会
- ② 共催 大学図書館近畿イニシアティブ
- ③ 担当 近畿地区（大阪府立大学）
- ④ 趣旨 大学図書館の当面する諸問題について研修を行い、図書館職員の知識能力の向上を図る。
- ⑤ 日時 平成18年7月27日（木）及び7月28日（金）
- ⑥ 会場 大阪府立大学 学術交流会館及び学術情報センター実習室
- ⑦ テーマ 「大学図書館職員パワーアップ」
- ⑧ 参加者 57大学（近畿地区の国立大学、私立大学を含む） 81名
- ⑨ 日程

第1日 講演1 「大学図書館に未来はあるか？」

国立大学法人千葉大学附属図書館

館長 土屋 俊 氏

パネルディスカッション

テーマ「大学図書館職員パワーアップ」

コーディネーター 土屋 俊 氏

パネラー ・京都大学医学研究科教務・学生支援室 専門職員 北川 昌子氏

事例報告「情報リテラシー教育への取り組み」

・大阪府立大学学術情報課 主査 長谷川真奈美 氏

事例報告「学生選書会議の設置と選書ツアー」

・関西学院大学図書館運営課 主幹 安本 裕和氏

事例報告「機関リポジトリ構築への取り組み」

第2日 講演2 「実践的！情報を使うスキルはこう磨く」

同志社大学総合情報センター情報サービス課

今出川サービス係長 井上 真琴氏

⑩ 報告 研修会の内容をとりまとめ、公立大学協会図書館協議会ホームページに掲載

⑪ 研修会決算報告

収入	研修会予算	310,000円
	参加費	42,000円
	銀行利息	4円
	合計	352,004円
支出	講師謝礼	120,880円
	講師交通費	2,940円
	情報交換会参加費	16,000円
	会議費	19,260円

スタッフ昼食代	20,940円
お茶代等	18,000円
資料印刷費	12,855円
報告書作成費	45,000円
消耗品費等	1,375円
手数料等	6,200円
合 計	260,080円

残 高 (返金額) 91,924円

## (2) 大学図書館職員長期研修

- ① 主催 筑波大学
- ② 日時 平成18年7月3日(月)～7月14日(金)
- ③ 会場 筑波大学春日地区情報メディアユニオン及び中央図書館
- ④ 受講者 国立大学25名、大学共同利用機関3名、公立大学2名、私立大学7名  
計35名
- ⑤ 研修報告

平成18年度 大学図書館職員長期研修 参加報告

滋賀県立大学図書館情報センター 駒井敦美

<はじめに>

平成18年度大学図書館職員長期研修は、大学図書館の中堅職員に対する学術情報の最新知識の教授、図書館経営・情報サービスについての再教育、職員の資質向上とマネジメント・企画能力の向上を図ることを目的として、平成18年7月3日(月)から7月14日(金)の2週間、筑波大学にて行われた。本研修は、昨年度までの文部科学省との共催から筑波大学単独の主催となり、従来のプログラムに比べ大学図書館の経営・企画に重点を置いた内容であった。

<図書館マネジメント総論>

講義では、図書館が大学の教育研究活動を支える学術情報基盤となるために、①大学の特徴に合った印刷資料・デジタル資料の安定的確保、②学習・教育・研究支援という大学図書館のミッションの実行、③学術機関リポジトリの構築による情報発信について戦略的な計画を立案・実行することの必要性について述べられた。そのために必要な安定的な財政基盤を確保するには、大学の理念や目標を実現する上で図書館が重要な学術情報基盤であることを明確に位置づけ、図書館活動に対する全学的な理解を得ていかなければならないと感じた。実践事例として、省エネ対策、図書購入集中処理システムによる購買の効率化、ITを活用した省力化などコスト意識をもった業務改善と利用者ニーズを迫及したサービスへの取り組みと成果が紹介された。これらの講義をもとに大学図書館経営について班別討議を行い、各自でレポートを作成した。

<学術情報流通等各論>

企業および公共図書館の顧客ニーズの把握とサービスの展開についての講義と、ホームページ、

OPAC、電子図書館等の今後の情報発信技法の方向性についての講義を受け、顧客指向サービスについて班別討議を行った。ポイントは利用者のために何ができるのかを考えて発想を転換することで、ユニークな意見が飛び交った。

情報リテラシー教育についての講義では、実践事例に大変触発された。生涯学習の視点から大学図書館における情報リテラシー教育の有用性を認識し、社会的にも重要な活動として取り組むことが必要であると感じた。また、教員との連携の必要性も再認識した。

古典籍についての講義では、古典籍の整理、保存、利用者に提供する際に配慮すべきことなど具体的な話を聞くことができた。資料を保護するという観点から、当館でも古典籍の取り扱いマニュアルのようなものを作成し、整理や提供のしかたを見直したい。

大学図書館の危機管理についての講義では、前半は図書館で発生する利用者とのトラブルについてアンケート調査結果をもとに講義が行われた。どの図書館でも同じような対人ストレスを抱えていることがわかった。対応方法についてはこれという決まった方法はないが、クレームの場合など拒否せず時間をかけて話を聞くことが、相手の怒りを鎮めるのに有効である。後半は障害のある利用者に対する接客の技術について具体的な講義を受けた。施設のバリアフリーは気にしていても、対応の仕方については気づいていない事柄が多いと反省させられた。「私たちがバリアフリーであることが大事です。」という講師の言葉は印象的であった。

#### <企画立案演習>

プレゼンテーション演習では、事前に作成してきたプレゼンテーションをグループ内で発表し、内容について意見を出し合った。さらに代表数名の発表を受講生全員で評価しながら、効果的な発表のしかたについて学んだ。

企画書の作成では業務委託をする場合の企画の立て方、企画書の書き方等について講義を受けた後、実際に業務委託をすることを想定して企画書を作成した。

#### <見学>

国立国会図書館では概要説明の後、館内を巡回し、閲覧室や資料の整理・保存の様子、資料修復現場などを見学した。選択の施設見学では、東京大学総合図書館を訪れた。1928年に建てられた趣深い建物が、図書館員の方の工夫と努力によって、現代の利用者のニーズにあった図書館としてとても上手く活かされていると感じた。

#### <おわりに>

研修に参加してあらためて大学図書館について考え、多くのことを学ぶことができた。また、全国の大学図書館員の方と知り合い、図書館について語り合えたことは大変貴重な経験となった。この研修で得たことを今後の図書館業務にしっかりと反映させていきたいと思う。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった公立大学図書館協議会に心よりお礼申し上げます。また、多忙な時期に快く研修に送り出してくれた職場の上司や同僚に、この場を借りて感謝申し上げます。

<はじめに>

昨年度までは、文部科学省が共催で行われていた大学図書館職員研修であったが、今回から、筑波大学のみ主催となった。また、目的も昨年度とは少し変更が加えられ、「職員の資質とマネジメント・企画等の能力の向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させる」となり、カリキュラムもその目的に配慮された構成となっていた。受講者の定員も変更があり、昨年度は 40 名だったところが、今年度は、35 名になっている。

<講義及び演習>

独立行政法人化することにより、費用対効果からの観点が目立っており、図書館として今後どのようにしていくかについて検討するためにも『経営学入門』の講義が取り入れられていた。『大学と大学図書館（図書館の位置付けと役割）』、『大学図書館職員の新たな役割』などの講義の後に大学図書館経営についての班別討議を行なった。

プレゼンテーション演習では、実践的な講義内容（①パワーポイントが主体になってしまい、発表者が従属的にならないようにすること。②聞いている人を見るように心がける。③スライドの文字が多くなりすぎないようにする。）など具体的な説明が多くしていただいたので、今後の業務に生かすようにしていきたい。また各班の代表者のプレゼンテーションが行われたあと評価が行われた。

筑波大学が受講生にレポートや演習課題を作成するためのコンピュータの環境を提供してくださっていたので、快適であった。

<見学>

午前中は東京大学総合図書館、東京大学柏図書館、明治大学図書館のいずれか 1 つを選択し、午後からは、昨年度と同じく国立国会図書館を見学させていただいた。

また、昨年度に引き続き正規の研修内容に含まれていないが、国立情報学研究所の見学会も実施され、多数の受講生が参加した。E-mail によるやりとりがあっても、直接お会いすることがあまりなかったもので、とても良い機会となった。

<おわりに>

長いようで短く感じた長期研修でしたが、現在の大学図書館における情報サービス提供を充実させるための講義から得た情報も多くあったが、全国の大学から集まった受講生の方々との交流も貴重な経験となり、また大きな収穫でした。

長期研修に参加する機会を与えてくださいました公立大学図書館協議会と筑波大学の関係者の皆様と、多忙な時期にも関わらず、参加させていただいた職場の上司や同僚また関係者の皆様に対して、この場を借りてお礼申し上げます。